

東宮殿下御来校資料

御台臨概況

東宮殿下には東北大演習に先ち本県下に行啓仰出され十月十三日に本校に御台臨遊されました。当日は内大臣、宮内大臣、侍従武官長、侍従長以下数多の供奉員を随へられ午前十一時二十五分御着になりました。柴田校長は文部大臣代理武部実業学務局長と共に玄関にて御出迎え申し上げ直に階上御座所に御案内申し上げます。

御着座後直に柴田校長に拝謁仰付けられ次に校長より言上書及び本校一覽を奉呈し尚お本校の沿革、概況、並に教育方針等を言上し 終わって拝謁室に於て貴田教授外十六名に対し列立拝謁を賜わり、それより学校長のご案内にて校内を御巡覧遊されました。

御巡覧は応用化学科、紡織科、色染科、電気科、機械科という順序でありましたが、応用化学科では該工場に据付の抄紙機械、製氷機械等の運轉状況、紡織科では製織工場の状況、色染科では染色仕上の工場及染料研究室、電気科では生徒実習の状況、機械科では仕上工場等を夫々親しく御覧遊ばされました。

而して応用化学科、紡織科及色染科の各工場には各科の製作品を、電気科工場にては電気に関する内地製機械類を陳列して御台覧に供しました。

学校長はご案内の際各科工場実習の状況に就き夫々御説明申し上げますが殿下には紡織科工場の人造絹糸其他の製品及染料研究室の研究品の施設等につき特に御注意遊ばされたる様拝察致されました。

而して御巡覧午前十一時五十四分御機嫌麗はしく上杉伯爵邸に向って御出発遊ばされたる様拝察致されました。而して御巡覧后午前十一時五十四分御機嫌麗しく上杉伯爵邸に向って御出発遊ばされました。

追録 柴田校長は全日午後六時、殿下の御召により山形御泊所に伺候し御陪食の光栄を擔はれたるのみならず御下賜品として白羽二重一反を頂戴して帰られました。而して柴田校長はこの光栄は己一人にて擅せんに受けりべきものに非ずとなし、職員七十七名に対しては行啓記念写真帖存冊（写真帖内容玄関車寄御降車、御座所、拝謁所、言上書、御陪食御案内及献立書、御下賜品等）づつ傭人六十六名に対しては菓子券一封づつを御配付なされました。

言上書及口頭言上の内容左の如し

言上書（帛紗に包み本校一覽と共に捧呈せし分）

米沢高等工業学校長 臣柴田才一郎謹みて白す

今回当地方

行啓に方り本校へ

台臨の光栄に浴し臣の等恐擢感激の至りに堪へず恭しく拝謝し奉る 臣才一郎乏しきを米沢高等工業学校長に承々日夜競々として惟其の任を曠ふせんことを恐る謹みて本校現況の

概要を言上し奉る。

米沢高等工業学校は明治四十三年三月の創立に係り爾來十有五年を閱し其の間幾多の変遷を経て今日に至れり 学科は色染、紡織、応用化学、機械、電気の五科に分ち修業年限を各三ヵ年とす 但し電気科は三年前の増設に係る

職員は現在校長一人、教授二十人、助教授八人、講師十四人、書記七人、雇員二十六人、傭人六十六人なり 生徒の数は本科三百十人にして外に研究生一人、選科十一人、外国人三人あり

教育の方針は専門の学問の研鑽に努むるは勿論毎に詔勅の

聖旨を遵奉して品性の修養に力めしめ尚体育に於ては、普通体操科軍事教練の外、交友会に武術競技の各部を設けて鍛錬に努めしめ居れり

卒業生を出すこと十二回、其の総数本科六百七十三名、選科修了生三十名、本科修業生一名にして会社、工場、官庁、学校及自家に於て各専門の事業に従事しつあり、各教官は常に専心教授に従事すると共に校務の容す限り実業界教育界其の他と密接の関係を結び指導、講演等に従事し会社の為めに盡す所あり 臣才一郎辱く御前に咫尺し感激の至りに堪ふるなし 謹みて教育振興の聖旨を奉體し益報効の誠を効さんことを期す。

右畏みて言上し奉る

大正十四年十月十三日

米沢高等工業学校長 臣柴田才一郎 頓首頓首

口頭言上（御前に於て口頭にて言上の分、豫め奉書に記載し置けり）

臣才一郎は乏しきを本校校長に承け居るもので御座りまして、本日台臨の光栄に浴したるは恐懼の至りに堪へず恭しく御禮を申し上げ奉る次第で御座ります。茲に謹んで本校現状の概要を言上致します

本校は我邦第六(原本の通り記載したが、第七の間違いと考えられる)の官立高等工業学校で御座りまして明治四十三年の創立に係り本年で十五年を経過致しました

専門学科は色染、紡織、応用化学、機械、電気の五科で御座りまして、電気科は三年前の増設に係り修業年限は凡て三ヵ年で御座ります

職員は現在校長一名、教授十九名、助教授八名、講師十四名、書記七名で御座りまして各自職務に盡卒して居ります

生徒の数は現在三百二十五名で御座りまして全国より参りて居りますが、東北が約其の二分の一を占め山形県が約三分の一を占めて居ります

土地が邊僻であります關係に依り幾分世間の風潮に後るる嫌はありますが、生徒は概して着実にして真面目に学業に精勵して居ります

卒業生は選科生等を合せ七百四名で内外各地に散在して居りまして東京横浜方面が最多数を占めて居ります

勤務の場所は会社方面最多数で御座りまして約全数の半に達して居ります

以上謹みて本校の概況を言上致します

(備考) 言上書の用紙は鳥の子或は大奉書とし表装の様式次の如し

(本校にては注文の鳥の子間に合はざりしため大奉書を使用し綴紐は紫の絹糸を使用せり)

而して之を捧呈せし時は白塩瀬の帛紗に包みたり

本校一覧は表具師に依頼し特別表装をなせり

御出迎及警備概況

御出迎御奉送は十月十一日(東京より山形に向はれし日)及十月十三日御台臨当日の二日間なりしが之は県庁と御打合の上施行したり(詳細は左記印刷物参照のこと)

十月十三日は彌々御台臨遊ばさるる日に付特に警備に就ては時節柄万全の計画を立て構内の警備一般は全然本校職員生徒一同にて実施せり(但し是れは警察の力たらざるを以て予め警察と交渉諒解の上)

警備の指導官は配属特校及体操教官之に当り当日は特定係員の外は絶対構内特定場所以外へは入らしめざることに定め早朝より校門の監守は守衛周囲及構内要所要所の警備は生徒数十名(御目障りならざる場所を選定して)を以て之に当たらしめた 当警備の任に当る守衛及生徒は特に詮衡の上選定したり(警備の予行実習は再三実施せり)

次に前述の特定係員とは県庁警察部より交附の胸章所持者にして本校より特に指定の職員、券の警衛係及県指定の写真班等なり

(附記)

最初、扈從新聞記者入門の模様ありしも短時間の御台臨なれば県庁にて之を差止め当市最後の御行啓場所にて御行啓の模様を宮内当局より報告したり

次に沿道及御入門、御出門の際の御奉送迎は単に職員のみならず小使給仕をもその光栄に浴せしめんが為め御目障りにならざる様、特に注意して其の列に加へたり 各科工場職工は特に服装を清潔ならしめ校内御巡覧の際、工場監督者の指揮により工場の一隅にて謹んで御奉送申上げしめたり

支那及朝鮮学生御奉送迎列中の監守には特に配慮せり

(備考)

参考の為め当市の御奉送迎の要項、各員部署、注意要項、服装、敬礼の方法等に関する地注意書を添付せり

一、其他

御行啓事務の主体は宮内省にて、県庁は其の取次役に付、宮内省より打合或は下検分に来校の際は充分に御打合せのこと 本校は県庁所在地に非るを以て宮内事務官の来校は一回のみなりしを以て万事県庁と打合せたるが県庁にても宮内省の最後の順序方針たたざる中

は確答致し難き模様あり 準備上支障ありたるを以て貴校にて御準備の際、県庁にて不明
の際は宮内当局者に直接交渉敢て差支なからん